平成29年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	サービスラーニングII (Service-Learning II)			授業コード	E047302
担当教員名	今西　衛・舛田　佳弘			科目ナンバリングコード	E21417
配当学年	2	開講期	集中		
必修・選択区分	選択	単位数	4		
履修上の注意または履修条件	正課時間外の活動があります。この活動も評価の対象となります。				
受講心得	この講義は、実際に、現場での活動や、提案などを行います。学ぶのではなく、解決するという姿勢で臨み、単位修得のみが目的でなく、地域貢献をする目的で参加してください。				
教科書	必要に応じて資料を配布します。				
参考文献及び指定図書	榎並 利博「地域イノベーション成功の本質」、第一法規、2013 寺谷 篤志 ほか「地方創生」から「地域経営」へ」、仕事と暮らしの研究所 、2015 橋本 行史 編著「地方創生の理論と実践 -地域活性化システム論- 」、創生社、2015 デービット・アトキンソン「イギリス人アナリスト国宝を守る」、講談社＋α新書、2014				
関連科目	社会調査法、まちづくりマーケティング、まちづくりマーケティング演習、サービスラーニングIA,IB,III、プログラミング入門、プログラミング言語、データ解析A、システム分析論、地域経営論、地域イノベーション論				

授業の目的	地域が抱える問題を自ら発見し、問題を解決するために、創造性を発揮し、データとロジックに基づいた科学的論理思考する人材を育成し、大分をはじめとする、地域を牽引する人材へ成長を目指します。 そのためには、繰り返し積み重ねていくことでより深い理解や関心を育てていくことでつながっていきます。1年次にサービスラーニングIA,IBをはじめフィールドワークや、ボランティア活動に参加していると思いますが、皆さんの新鮮な感覚や感動をまちづくりに活かすことが大事です。また、社会人・地域人としての自覚を育てていくことに繋げていことを目的としています。
授業の概要	本科目では、平成27年度1年次に対して開講したサービス・ラーニングIA、IBを踏まえ、豊後大野に点在するジオパークや磨崖仏、歴史的建造物、食がなぜ顕在化されないのかについて、まちづくりマーケティング論、観光ビジネス論などの学問の知識を用いて、より科学的な手法で洗い出し、モデルを構築することで、定量的な分析と、実践活動の融合を図るプログラムを開発する(一般社団法人ぶんご大野里の旅公社との連携)。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第 1 週 ： オリエンテーション 豊後大野が抱える問題についてのおさらい。	レポート提出
第 2 週 ： 豊後大野の課題の定量化(1) 豊後大野の課題を定量的に表現することで、他者に伝える力を養います。	レポート提出
第 3 週 ： 豊後大野の課題の定量化(2) 豊後大野の課題を定量的に表現することで、他者に伝える力を養います。	レポート提出
第 4 週 ： 政策提言(1) 豊後大野を活性化するための政策を考えます。必要であれば現場に出向きます。	レポート提出
第 5 週 ： 政策提言(2) 豊後大野を活性化するための政策を考えます。必要であれば現場に出向きます。	レポート提出

第 6 週 ： 効果予測（1） 政策を実行することで、どのくらいの人が呼び込めるのか予測モデルを構築します。	レポート提出
第 7 週 ： 効果予測（2） 政策を実行することで、どのくらいの人が呼び込めるのか予測モデルを構築します。 予測が良くない場合は4－6回の内容を修正します。	レポート提出
第 8 週 ： 効果予測（3） 政策を実行することで、どのくらいの人が呼び込めるのか予測モデルを構築します。 予測が良くない場合は4－6回の内容を修正します。	レポート提出
第 9 週 ： ベンチマーク（1） 社会実験の準備などを行います。	レポート提出
第10週： ベンチマーク（2） 社会実験の準備などを行います。	レポート提出
第11週： 社会調査準備 社会調査の準備を行います。	レポート提出
第12週： 社会調査準備 社会調査の準備を行います。	レポート提出
第13週： コーディング 社会調査・社会実験で得られたデータをコーディングします	レポート提出
第14週： データ入力 データ入力を行います。	レポート提出
第15週： プレゼンの準備 プレゼンの準備を行います	レポート提出
第16週： プレゼン報告 プレゼンテーションを行います。	

授業の運営方法	（1）授業の形式	「演習等形式」
	（2）複数担当の場合の方式	「共同担当方式」
	（3）アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	カテゴリー Ⅰ：ステークホルダーとの協働による課題解決型学修科目	
備考	進捗状況により、日程が前後します。	

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	豊後大野の課題を解決しようとしているか
【知識・理解】	豊後大野の観光資源の知識、課題解決
【技能・表現・コミュニケーション】	調査を行える技能、ディスカッション、プレゼンの発表力
【思考・判断・創造】	豊後大野に対して、活性化を与えるような判断や、提案が行えているか

○成績評価基準（合計100点）	合計欄	80点

到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等（テスト）	レポート・作品等（提出物）	発表・その他（無形成果）
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		10点	10点
【知識・理解】 ※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。		10点	10点
【技能・表現・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ】 ※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		10点	10点
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		10点	10点

（「人間力」について）

※以上の観点に、「こころの力」（自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力）と「職業能力」（職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力）を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等（提出物）	プレゼンでの評価は、学外評価者の評価を含みます。また、毎回の講義で課題が課されます。したがって、毎回出席していないと、課題も提出できませんので注意してください。 Sレベル：　積極的に参加し、イノベーションとなる解決策と、それを根拠づける説明がなされている。 Aレベル：　課題の解決のためそれを根拠づける説明がなされている。 Bレベル：　課題の解決手段はあるが、それを根拠づける説明が少ない。 Cレベル：　課題解決の提案がない
発表・その他（無形成果）	正課時間内では終わる活動ではありません。時間外での活動を積極的に評価します。